

中村 元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村 元 慈しみの心 No.1347

まさに知るべし、もろもろの
余の苦患は、或は免るる者あら
んも、無常の一事は、終に避く
る処なきを。
(源信)

△解説▽さまざまな苦悩や煩
は、時にはそれを免れ避ける人がい
るかもしれない。しかしながら、無常
というこのことだけは、どうしても
避けることができない。それは繰り返
返し説かれるところだが、逃げられ
ないのだから、認めて、永遠の安楽
を得るための実践をするしかない。
服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 19 中村元記念館協力

中村 元 慈しみの心 No.1346

賢者は、まだ来たらざる恐怖
(危険)を知って、遠くから避
ける。しかし、すでに起こった
恐怖(危険)は、そこにおいて
立ち向かう。
(『ダンマニーティ』)

△解説▽自らを悪へ導くような危
険なことや場所からは、前もって遠
ざかり近付かないのがいい。しかし、
そのような危険や恐怖が生じること
はある。そのときは、冷静に、現実
をみて立ち向かうのが賢者である。
服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 18 中村元記念館協力

中村 元 慈しみの心 No.1349

因なくして果を得るは、この
処あることなく、善なくして苦
を免るるは、この処あることな
し。
(最澄)

△解説▽世界は因果でなりたつて
いる。縁起(縁つて起こる)といっ
てもよい。事実として、原因となる
ことがなければ、結果を得ることは
できない。善いことを行わなければ、
苦しみを免れることはない。ただ、
因果の世であるから苦を克服するこ
ともできるわけだ。
服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 21 中村元記念館協力

中村 元 慈しみの心 No.1348

悲しむなかれ、嘆くなかれ、
わたしはかつてこのように説い
たではないか、すべての愛する
もの、好むものからも別れ、離
れ、異なるにいたるといふこと
を。
(釈迦)

△解説▽病のため臨終が迫った様
子を見て、悲しむ弟子に述べたこと
ば。さらに言う。おまえはよいこと
をしてくれた。努めはげみなさい。
速やかに汚れないものとなるだろ
う、と。無常は変わらないが、正し
い対処の仕方がある。
服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 20 中村元記念館協力

中村 元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村 元 慈しみの心 No.1351

汝らがこの道を行くならば、
苦しみをなくすことができるで
あろう。（棘が肉に刺さったの
で）矢を抜いて癒す方法を知っ
て、わたくしは汝らにこの道を
説いたのだ。（釈迦）

△解説▽ブツダとは苦しみを克服
する道を発見し、実践して体得し、
人々に伝えた人。その道筋を知って
教える人である。そして、言うので
ある。あなたたちも、自ら努めてそ
の道を実践するとよい、と。
服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 23 中村元記念館協力

中村 元 慈しみの心 No.1350

悪事を行なっておきながら、
「誰もわたしのしたことを知ら
ないように」と望み、隠し事を
する人、かれを賤しい人である
と知れ。（釈迦）

△解説▽たとえば、暴力を振るい、
罵り、不利益になることを教え、そ
して、自らの悪い行いが気づかれな
いことを願う。それは賤しい人であ
るといふ。隠し事をして、真実は
変わることはない。どこかで矛盾が
生じ、その結果を受けることになる。
服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 22 中村元記念館協力

中村 元 慈しみの心 No.1353

耐え忍ぶこと、ことばのやさ
しいこと、諸々の道の人に会う
こと、適当な時に理法について
聞くこと、これがよなき幸せ
である。（釈迦）

△解説▽誰もが幸福を望んでい
る。最上の幸せとは何かについて述
べた言葉。道の人とは修行者で、徳
の高い人のことをいう。そのような
人に会い、正しい教えを聞くのは、
自らを幸せに育て保つ基本である。
服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 25 中村元記念館協力

中村 元 慈しみの心 No.1352

同行のまえにては、よろこぶ
なり。これ、名聞なり。信のう
えは、一人居てよろこぶ法な
り。（蓮如）

△解説▽教えを聞く仲間がいると
きは、人目を気にし、まわりの評価
を求めて喜んでるように見せてし
まう。名声を求めて世間体をつくら
う（名聞）。しかし、教えを自分の
ものとして信心をいだいているなら
ば、一人でいるときにも喜びの気
持ちがわいてくるものだ。
服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 24 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村元 慈しみの心 No.1355

わたしは世間におけるいかなる疑惑者をも解脱させ得ないであらう。ただそなたが最上の真理を知るならば、それによって、そなたはこの煩悩を渡るであらう。
(釈迦)

△解説▽世間でありのままの姿に目を向けず、自説を述べては議論をする人（意識がそちらに向いている人）を安らぎへ導くことはできない。特別な教義にたよる必要はなく、ただ、真実の姿を知れば、安楽への道は開かれる。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 27 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1354

常に戒を身にたもち、智慧あり、よく心を統一し、内省し、よく気をつけている人こそが、渡りがたい激流を渡り得る。
(釈迦)

△解説▽しっかりと戒めを守っており、知恵をそなえ、心落ち着いて集中している。そして、ありのままに知る気づきを忘れないでいる。そのような人が、渡りがたき激流、すなわち、煩惱うずまくこの世間を渡っていくことができるのだという。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 26 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1357

われらはよりどころがないわけではありません。われらにはよりどころがあります。すなわち、法をよりどころとしているのです。
(釈迦)

△解説▽何もたよるものがなく不安である。しかし、よりどころがないわけではないという。正しく実践したものには、誰にでも開かれているよりどころである。ブツダとはそれを知り、法をよりどころとしている人のことである。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 29 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1356

かれらはすべて正しい法を尊敬していたし、尊敬しているし、また尊敬するであらう。
(釈迦)

△解説▽ほんとうの真理、永遠の理法をみつめ知った人がブツダ（目覚めた人）とよばれた。それは、普遍的なものだから、過去においても未来においても、現在においても正しく実践することで体得できる。そして、その人は、憂いや苦しみを超えることができる。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 8. 28 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村元 慈しみの心 No.1359

法に頼るからこそ「千万人といえども我ゆかん」といふ強い自信がでてくるわけです。だから、たよるべきものは自己であり、その基づく普遍的な法であります。
(中村元)

△解説▽「千万人といえども我ゆかん」とは『孟子』の言葉。良心に恥じるところがないなら、たとえ千万人の敵に対しても恐れずに向かっていこうという。真実にたよって進むなら、勇気も自然にわいてくるはず。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.8.31 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1358

わたしは内外の区別なしに（ことごとく）法を説いた。完（まこと）き人（一仏）の教えは、何者かを弟子に隠すような教師の握り拳は存在しない。
(釈迦)

△解説▽臨終が迫った釈迦が弟子に語った言葉。これまで、進むべき道については隠すことなくすべて説いてきた。質問にも答えてきた。わたしは秘伝のような特別な教えを握って隠していることはないという。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.8.30 中村元記念館協力